

【報告 1】

バス位置情報システムの拡大とICカード決済システムの導入について

現在、市街地循環路線にのみ対応しているバスの位置情報発信システム「バスどこ？」について、新発田市内を運行するコミュニティバス等の運行区域にも拡大し、併せて、位置情報システムと連携した専用ICカード等によるキャッシュレス決済システムを導入する。

1 背景

- (1) 求められるバス利用環境（利用者の声）
 - ・リアルタイムでの情報発信（位置情報や遅延状況など）
 - ・支払方法（前払い、後払い）の統一
 - ・ICカードやパスの利用（キャッシュレス化）
- (2) 小型車両による新たな運行手法には「定時性の確保」がない。
- (3) With～After コロナ感染症予防「キャッシュレス化」の推進

2 期待効果

- (1) バス待ちの不安解消（小型車両による新たな運行手法「定路線迂回型ハイブリッド運行」のデメリットを補完）
- (2) 利用データ集積による集計・分析作業の効率化
- (3) 渋滞発生時、降雪時などにバスの位置を把握、運行管理への活用
- (4) 「キャッシュレス化」で利便性向上、支払方法の後払いへの統一

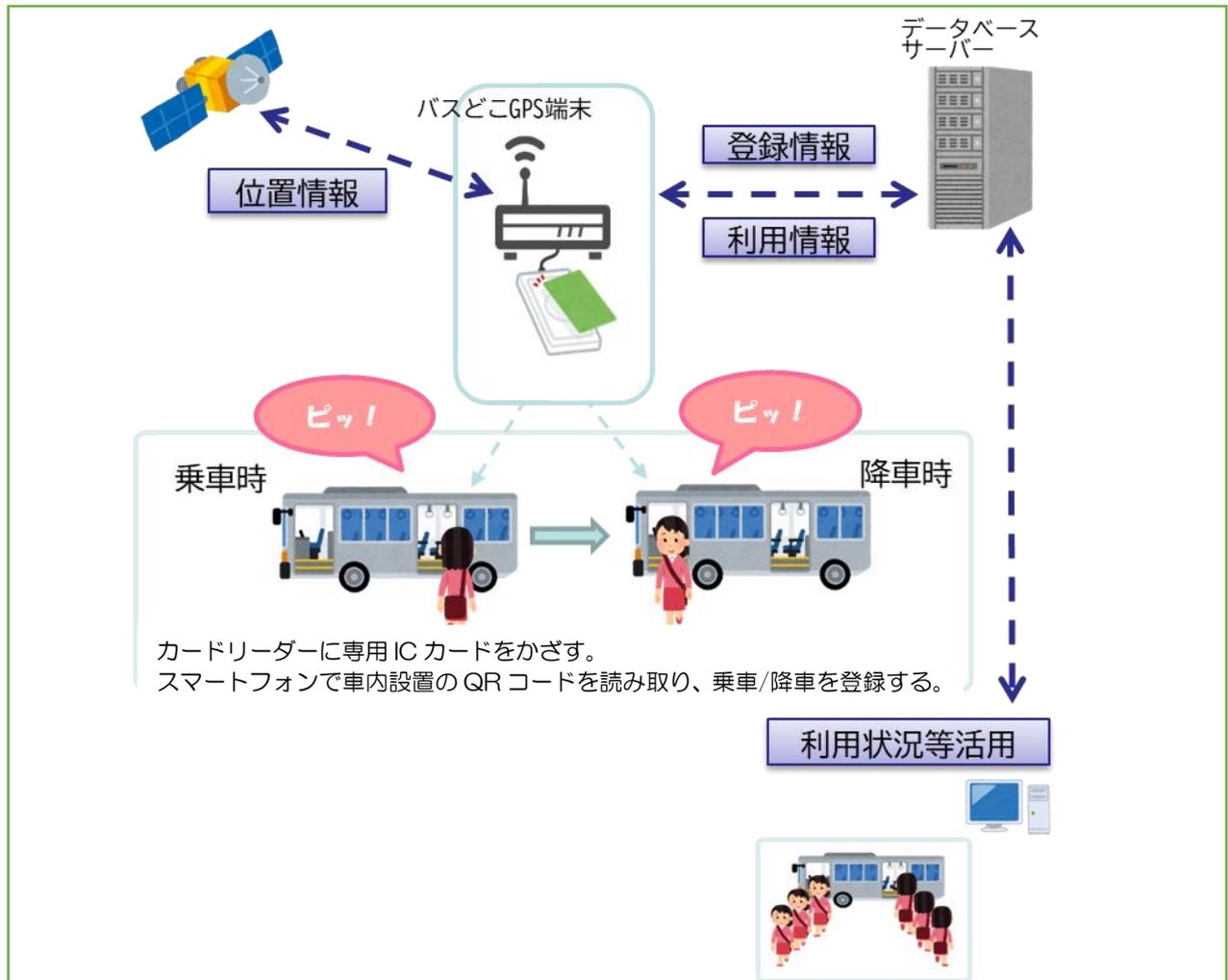
3 対象路線

市街地循環バス（あやめバス）、川東コミュニティバス、まつうら号、新発田市コミュニティバス（菅谷・加治）

4 スケジュール

	令和3年							令和4年		
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
(1)バス位置情報の表示	位置データ作成 バスの運行ルート、停留所位置情報、時刻表等をデータ化する			テスト運用 本格運用 運行ルート上を試走し、データ収集と表示の確認を行う。						
(2)バス料金キャッシュレス決済の導入	システム開発 バス位置情報と連動した決済システムを構築する			テスト運用、周知期間 市街地循環バス路線においてシステムを実装し、運用テストを行う。					本格運用	

5 システムのイメージ



【利用時の流れ】

(乗車時) 専用 IC カードをバス乗車口の読取器にかざす
スマートフォンの場合は、車内に設置した QR コードを読み取り、乗車登録する
→GPS 情報と連動して、乗車場所が記録される

(降車時) 専用 IC カードをバス降車口の読取器にかざす
スマートフォンの場合は、車内に設置した QR コードを読み取り、降車登録する
→GPS 情報と連動して、降車場所が記録される
→乗車場所と降車場所を比較して、料金が引去られる

【課金の手続き】

回数券取扱い窓口において、専用の端末から IC カードまたは登録済みのスマートフォンへの現金による課金を行う。バス車内では、課金の手続きは行わない。

(対応窓口) ①観光情報センター、②川東コミュニティセンター、
③菅谷コミュニティセンター、④市役所本庁舎 1 階(市民生活課)、
⑤市役所本庁舎 6 階(市民まちづくり支援課)